

## 人文学部ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー

### 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

人文学部は、人文科学と社会科学の知的伝統を受け継ぎ、幅広い教養と豊かな人間性の基盤の上に立ち、高いコミュニケーション能力と広い視野を持ち、現代社会の諸問題や地域社会から要請される諸課題に対応できる能力をそなえた人材を育成する。

本学部で学び学士号を取得した学生は、以下のような能力を身につけている。

1. 社会人としての基本的なコミュニケーションに十分な表現や発信をおこなうことができる。
2. 幅広い教養と専門的な学術的思考の基礎をそなえ、社会における文化活動や公共的活動に寄与する基本的な力をそなえている。
3. 社会人として、自らのキャリアについての自覚をもち、主体的で批判的なものの見方ができる。
4. 創造的で豊かな人間性をそなえ、活力ある社会の実現に貢献する力を身につけている。

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

これらの能力の獲得のために、人文学部のカリキュラムは以下のような方針にもとづき編成される。

1. 社会人として必要とされる基本的なコミュニケーション能力や、異文化への理解を含めた、国際的なコミュニケーション能力を養うとともに、大学での学びに主体的に取り組む姿勢を涵養する。
2. 幅広い教養の基盤の上に、体系化された学術的な科目構成と厳格な成績評価により、人文社会科学の知的拠点にふさわしい教育を授ける。
3. 学部全体を通してキャリア意識を高め、将来の社会的な活動の基盤をなすものの見方を養う。
4. 演習やゼミなど少人数の丁寧な指導と講義科目を中心とした授業評価アンケートの実施に加え、教育方法の不断の改善努力を通じて質の高い教育実践をおこなう。

## 人間文化学科ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー

### 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

人間文化学科は、「共生人間学」と「文化環境学」の2つのコースのもと、人文科学のほぼすべての学問領域をカバーする12の専修を用意している。本学科に所属する学生は、これらの専修の一つに所属して所定の科目を履修し、学修成果を卒業論文にまとめ、学士（文学）の学位を授与されることとなる。そのさい、学位授与を受けるにふさわしい知識・技能が身につけているかどうかを判断するための目安として、本学科では以下の項目を重視している。

1. 学生ごとの個性的な問題関心を社会の中で生かすための基本技能として、情報リテラシーと言語的な自己表現力とを身につけている。
2. 人間・社会・自然について調和の取れた教養を身につけると共に、人間の多様な文化的活動について、各専攻分野の視点から体系的な専門知識を身につけている。
3. 独創的な研究課題をみつけだし、その解決に取り組める探求力を身につけている。
4. 大学における勉学の社会的な背景・役割を理解し、その成果を社会における文化的活動の批判的評価や発展に生かしていくことについて、強い意欲と責任感を持っている。

5. 多方面の人々との関わりを通じて、社会の中での自分の位置・責任・役割を知り、自分の仕事について考えることができる。

### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

1. 自主的・能動的な学習のなかで豊かな自己表現力を育ていけるよう、学生による発表・討論を中心とする形式の授業を充実させている。
2. 外国語能力の効果的な修得のため、目的別・段階別に授業科目を種別化し、国際交流協定締結校での学習の単位化にも配慮している。
3. 調和の取れた教養が身につくよう、基盤教育の「基幹科目」、「教養科目」に加え、「展開科目」として人間文化に関わる学問の多様性を展望できる科目を用意し、さらに専門教育の「自由科目」として、他の専修の授業科目も履修できるよう配慮している。
4. 専門知識の体系的な修得のため、授業科目を適切に種別化し、さらに履修上の目安として『履修モデル』を提示している。
5. 学生の多様な関心や状況に対応できる指導・助言体制の整備を進めると共に、学生からの要望も踏まえつつ教育方法の改善や成績評価の厳正化に努めている。
6. 創造的な探究力を養うと共に、自分自身の研究の学術的な位置づけや社会的意義について考えを深めるための場として、個別および専修単位での卒業論文指導を充実させている。
7. 社会の中での自分の位置・責任・役割を自覚した上で将来設計を構築できるよう、キャリア形成に関わる話題や、地域社会における活動等を盛り込んだ授業科目を用意している。

## 法経政策学科ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

### 【法経政策学科の教育目標】

本学科の教育課程は、法律コース、経済・経営コース、公共政策コースの3つのコースからなり、広く法律学、政治学、経済学及び経営学などの社会科学系の学問を学び、専門知識をより一層深めることにより、現代社会が抱える様々な諸問題に対応できる能力を身につけることを教育目標としている。

### 各コースの学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

#### 法律コース

現代社会に生起する種々の事象から法的問題を探り出し、その政治的・社会的・歴史的な背景を踏まえつつ、法的な観点から深く考察することによって、多様な法律課題に適切・柔軟に対応できる高度な判断力・問題解決能力を養う。また、将来、主体的な社会参画を通じて、良識と責任ある市民として公共の課題に取り組む力量を培う。

学士課程教育を通じて、以下の学習成果を得た結果、所定の単位を修得した者に**学士(法学)**を授与する。

1. 幅広く深い教養のうえに、法律学の体系的な知識を身につけている。
2. 社会の複雑多様な問題に関心を持ち、法的な観点から深く思考し、問題解決の方向性を示すことができる。
3. 多様な情報を的確に収集・分析し、他者の意見と常に交流しながら、自己の見解をとりまとめ、説得的に伝えることができる。
4. 法と社会に関する専門的な知識を基礎に、多様な場面で活躍できる柔軟な対応力をもった職業人として自己を実現し、社会に貢献することができる。
5. 健全な市民的常識を踏まえ、自他を尊重しつつ、公正な社会の実現のために社会公共の課題に主体的に取り組むことができる。

## 経済・経営コース

経済や企業経営のしくみ、経済政策、それらの歴史的展開と現状などを中心に学習します。こうした学習を通して、現代社会が直面する経済的・経営的・政策的諸課題に対して、複数の解決策を比較検討する能力、問題解決の方向を提示する洞察力及び政策立案能力を有する人材の育成を目標としている。

学士課程教育を通じて、以下の学習成果を得た結果、所定の単位を修得した者に**学士（経済学）**を授与する。

1. 基盤教育を通じて幅広く深い教養を身につけているとともに、コミュニケーション能力、学問の実践に役立つ知識や能力を有している。
2. 経済学あるいは経営学を中心とした社会科学に関する基礎知識を有している。
3. 現代社会が直面する経済的・経営的・政策的諸課題に関心を持ち続けるとともに、それらを論理的に分析し、その解決策を提案することができる。
4. 経済学あるいは経営学に関する専門的知識を基礎に、多様な場面で活躍できる柔軟な対応力を持った職業人としての能力を身につけ、豊かで健全な社会の実現に貢献できる。
5. 人間の経済活動という側面から市民生活に必要な教養や規範を広く身につけ、社会に対する洞察力などを培い、市民としての社会的責任を果たすことができる。

## 公共政策コース

公共政策とは、社会の抱える問題に対して、社会としてどのように取り組み、解決していくかを考察する学問領域である。法学、政治学、経済学及び経営学などの社会科学の基本的な科目をバランスよく学んだうえで、社会科学の幅広い知識にもとづいて現代社会の様々な問題を公共的な視点から把握し分析する能力を培う。また、実践的な活動を通じて、地域社会の問題解決に取り組む人材の育成を目標としている。

学士課程教育を通じて、以下の学習成果を得た結果、所定の単位を修得した者に**学士（政策科学）**を授与する。

1. 幅広い教養のうえに、法学、政治学、経済学及び経営学における基本的知識を包括的に理解している。
2. 現代社会が抱える問題の所在を見いだすことができると同時に、それらの問題を社会科学の視点から論理的に分析したうえで、解決するための政策の立案に取り組むことができる。
3. 地域社会における実践的な活動を通じて、社会に貢献できる姿勢を身につけている。
4. 他者の意見と交流しつつ自らの意見を伝えることができるコミュニケーション力を身につけていると同時に、社会科学の専門的知識にもとづいて多様な場面に柔軟に対応できる職業人としての能力を有している。
5. 市民として、自由で民主的な社会を支え、公共的な視点から、その改善に積極的かつ主体的に取り組むことができる。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 1年次からの基盤教育や学部共通科目では、大学で学ぶ意味や学習の方法を理解し、他者とのコミュニケーションや情報処理など基本的なスキルを身につける。また市民生活に必要な教養や規範を広く身につけ、社会に対する洞察力などを培い、将来社会人となる自己の人生設計について考える場を提供する。
2. 1年次からの学科共通科目では、社会科学の諸分野について幅広く理解し専門を学ぶ基礎的な方法を身につける科目を配置している。専門基幹科目では3つのコース毎に様々な専門分野を紹介し、1年次末にコースを選択する。2年次前期に開講する専門基礎科目（法経政策専門基礎演習）では、社会科学の初歩的な文献や資料を用いた少人数教

育を通じて専門の基礎的知識を学び自ら調べる方法について習得する。

3. 学部共通科目にあるキャリア教育科目などを履修することにより、就職など卒業後の進路を探究する。基盤教育及び専門教育を通じて、社会の様々な場で活躍できる対応力を持った職業人としての基礎的な能力を身につける。
4. 2年次からの専門教育科目では、各コースはそれぞれ以下の方針によりカリキュラムを編成・実施している。

### 法律コース

専門教育科目における公法・刑事法・民法の領域では、まず導入的な科目を履修することによって法律学の基礎的な理論について学習する。このような基礎的な知識の上に積み上げる形で、それぞれの領域の発展的な科目を履修し、法律学の体系性を踏まえた法的知識の定着を図る。加えて、法律、法理論の歴史的・社会的背景を様々な科目から学習し、幅広い教養と多様な場面で対応できる専門的な知識を身につける。また、政治学、経済学及び経営学の科目なども学ぶことができる。さらに自分の興味のある分野に関連する演習に所属し、社会における様々な法的問題に対する解決のあり方を、文献の収集・分析、教員・他の演習生との議論を通して自ら探求するとともに、自己の見解をまとめて論理的に伝える能力を養う。

### 経済・経営コース

経済学及び経営学における基本的な専門科目を学び、基本的な知識と考え方を身につける。さらに、応用的な専門科目を学び、現実の経済・経営現象を理解する能力や、問題解決のための基礎的な能力を養う。さらに3年次以降は、各自の関心に合わせて専門演習を選択し、少人数教育によって一層高度な専門知識を学ぶと共に、自ら課題を発見して論理的に分析し、それを正確に伝える能力を身につける。これに加えて、法学・政治学の科目なども学ぶことができる。これらの学習を通じて、現代社会が直面する経済的・経営的・政策的諸課題に対して、経済学及び経営学を中心とした社会科学に関する基礎知識を基に論理的に思考する能力や議論する能力、問題解決能力を養う。

### 公共政策コース

法学、政治学、経済学及び経営学の基幹科目をバランス良く学ぶことによって、社会科学の幅広い基礎的知識を身につける。そのうえで発展科目を履修し、問題の所在や解決方法を検討するために必要な専門的知識を身につける。3年次以降は、自分の関心のある分野の演習に所属し、論理的な思考力やコミュニケーション能力と同時に、公共的な視点から社会の様々な課題を見出す能力を養う。さらに、地域づくり・地域活動に参加する演習及び地域社会・地域行政の現状と課題を考察する講義を履修することができる。このような学習を通じて、社会や地域の実情を踏まえながら問題解決に取り組み、主体的に社会に貢献できる実践的な能力を養う。

## 社会文化システム研究科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

### ■社会文化システム研究科の教育目標

本研究科は、文化現象や社会現象の今日的な課題に積極的に取り組み、分析し、解決できる能力を持った人材の養成を目的とする。

### ■学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

#### 1. 専門基礎能力

高度で専門的な研究を展開するうえで必要となる幅広く深い知識と考え方を、正確かつ体系的に理解し身につけている。

#### 2. 研究遂行能力

人文・社会科学の専門領域における今日的課題に対し、自らの問題意識に基づいて、独力で研究を遂行することができる能力を有している。

#### 3. 専門応用能力

社会と文化を一つのシステムとして総合的に把握しつつ、現代社会が抱える多様な諸課題を解決できるように専門的な知識を活用・応用していく能力を有している。

#### 4. 社会への発信と貢献

専門領域において他者と積極的に意見を交換することを通じて、自らの研究成果を社会一般に発信する能力を獲得し、現代の知識基盤社会を多様に支える職業人としての資質を備えている。

### 文化システム専攻の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本専攻は、所定の教育課程を修了し、修士論文の審査及び試験に合格して、以下のよう  
な能力を修得した者に修士（文学）の学位を授与する。

#### 1. 専門基礎能力

現代の多様な文化現象に関して、高度で専門的な研究を展開するために必要となる幅広く深い知識と考え方を、正確かつ体系的に理解し身につけている。

#### 2. 研究遂行能力

人文科学の専門領域における今日的課題に対し、自らの問題意識に基づいて、独力で研究を遂行できる能力を有している。

#### 3. 専門応用能力

文化を一つのシステムとして総合的に把握し、現代社会が抱える多様な文化的諸課題を解決できるよう、自らが獲得した専門的な知識を活用・応用していく能力を有している。

#### 4. 社会への発信と貢献

人文科学の領域において、他者と積極的に意見を交換することを通じ、自らの研究成果を社会一般に発信する能力を獲得し、現代の知識基盤社会を多様に支える職業人としての資質を備えている。

### 社会システム専攻の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本専攻は、所定の教育課程を修了し、修士論文の審査及び試験に合格して、以下のよう  
な能力を修得した者に修士（政策科学）の学位を授与する。

#### 1. 専門基礎能力

今日の地域社会や国際社会に関して、専門的な研究を展開するために必要となる幅広く深い知識と考え方を、正確かつ体系的に理解し身につけている。

## 2. 研究遂行能力

社会科学の専門領域における今日的課題に対し、自らの問題意識に基づいて、独力で研究を遂行できる能力を有している。

## 3. 専門応用能力

地域社会を複合的なシステムとして把握しつつ、地域社会や国際社会の抱える多様な諸課題を解決できるように専門的な知識を活用・応用していく能力を有している。

## 4. 社会への発信と貢献

社会科学領域において、他者と積極的に意見を交換することを通じ、自らの研究成果を社会一般に発信する能力を獲得し、現代の知識基盤社会を多様に支える職業人としての資質を備えている。

### 文化システム専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専攻は、人間の認知行動や多様な文化現象を総合的なシステムの中に位置づけ、現象間の関連性を理解しつつ、現実的な文化現象の問題探求の道筋を見いだす能力を培うことを目的としている。このような目的を達成するため、本専攻では以下のような組織的な教育・研究指導体制を編成し、学生が将来への見通しを持って研究に専念できる環境を用意している。

#### 1. 教育研究の分野と領域

本専攻には「人間科学」、「思想歴史論」、「国際文化論」という3つの教育研究分野を設け、具体的にはそれぞれ以下のような対象について教育・研究を進める体制を構築している。

「人間科学」では、「言語科学」と「心理・情報」の2つの領域に分け、人間の行動メカニズムや言語運用のルールを対象として探求を進める。「思想歴史論」では、「思想文化」と「歴史文化」の2つの領域があり、世界諸地域の思想・歴史を対象に、社会科学的な手法をも援用しつつ総合的に追究を進める。「国際文化論」は「アジア文化」と「欧米文化」との2領域に分け、広範な文化現象を総合的に探求する。

#### 2. 科目編成

上記の各分野すべてにおいて、学生自身の問題意識を踏まえ、研究課題の設定・推進・解明というプロセスを着実に進めることができるよう、次のような科目編成を設けている。

指導教員の指導を継続的に受けて進める「特別研究」8単位を中心として位置づけ、講義形式の「特論」、演習形式による「特別演習」を選択必修科目として合計8単位以上、その他、実用的な情報または外国語の科目を4単位以上、さらに本研究科で開講される科目の中から自由科目として10単位以上の修得を通じて、学生が独自性ある修士論文を作成することができるよう科目を編成している。

### 社会システム専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専攻では、地域社会を構成する複合的な基本システムである公共システムと企業シス

テム、および、地域社会にとって重要な環境を形成する国際システムの3つの社会システムに焦点をあて、教育・研究体制を整えている。このような教育・研究体制のもとで、今日の地域社会や国際社会の抱える諸課題について、理論的、実践的に対応できる人材の育成を目指している。

## 1. 教育研究の分野と領域

本専攻では、「公共システム」、「企業システム」、「国際システム」の3つの教育研究分野を設け、教育・研究を進める体制を構築している。各教育研究分野の内容は以下のとおりである。

公共システム：公共政策と地域政策の2つの領域に分かれている。現代地域社会における多様な行政課題について複合的な視点から研究を進め、複雑化する行政ニーズに対応していくために必要な知識や能力を身につける。

企業システム：企業経営と経営法務の2つの領域に分かれている。企業活動に関する戦略形成と法政策課題について研究を進め、社会環境の変化に対応していくために必要な知識に加えて企業経営能力や法処理能力を身につける。

国際システム：国際関係と国際経営法務の2つの領域に分かれている。多様な国際的課題について社会科学の総合的な視点から研究を進め、地域社会の国際化にともなう諸課題に対応できる知識や能力を身につける。

## 2. 科目編成

本専攻では、以下のような科目編成を設け、学生自身の問題意識を踏まえながら、研究課題の設定・推進・解明というプロセスを着実に進められるようにしている。科目編成は以下の通りである。

特別研究（8単位）：修士論文の作成に関して、準備研究から論文完成に至るまで指導教員が指導を行うものであり、科目編成の中心として位置づけられる。

選択必修科目（12単位）：課題研究と密接に関連する分野を中心とする専攻科目、および、現代人共通の必須科目として位置づけられる共通科目から構成される。

自由科目（10単位）：幅広い知見を養うために設けられた科目区分である。